

- 1 派遣期日 令和4年10月29日(土)
- 2 研修先 学校名 お茶の水女子大学附属中学校
所在地 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
<https://www.fz.ocha.ac.jp/ft/index.html>

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取組

研究テーマ

試行錯誤と創意工夫のある「つくる学び」をつくる

～各教科における見方・考え方を生かした創造的思考力を伸ばす授業のデザイン～

お茶の水女子大学附属中学校では、「試行錯誤と創意工夫のある『つくる学び』をつくる」という研究主題で3年計画の研究を行っており、今年度は1年目の研究である。研究主題にある「つくる学び」は創造的活動を、「試行錯誤と創意工夫」は創造的思考を指し、創造的活動のなかで生起する創造的思考を引き出す授業の在り方について検討を進めている。また、創造的思考には創造的知識である「教科の見方・考え方」が深く関係していると考えため、今年度の研究では、教科の見方・考え方と創造的思考との関連について取り組んでいる。各教科の学習を通して、創造的思考はどのように発揮され伸ばすことが出来るか、学習過程の構造と、指導や支援の在り方について研究・実践がなされていた。

① 創造的思考(試行錯誤と創意工夫)のプロセス

右表のような創造的な活動の中で引き出されていくコピーテンシーが創造的思考力であり、「試行錯誤」し「創意工夫」する学習者の思考の総体である。この思考は教科の見方・考え方のような創造的思考を中核とし、分野・領域の知識や技能を活用しつつ、創造のプロセスをたどっていくものである。

創作表現、問題解決、知識創造の三つの創造的活動			
	創作表現	知識の創造	問題解決
活動領域	言語表現(記号表現も) 非言語表現(音楽・美術・身体表現等)	分野・領域問わず	社会的な問題解決 科学的な問題解決
目的	個人の内面を表現する	理論などの枠組みを作る	問題を分析し、解決する
主な方向	より印象的、魅力的に	より合理的、体系的に	より効果的、効率的に

② 教科学習における創造的活動を生かした授業デザイン

【授業の目標】 をめざして

【創造的活動】 を単元・題材に位置付けて

【教科の見方・考え方】 につながる【創造的思考】を引き出していく学習

※ 創造的活動とは

創作表現 : 個人の内面を印象的、魅力的に表現する活動

知識の創造 : 理論などの枠組みを合理的、体系的につくる活動

問題解決 : 問題を分析し、効果的、効率的に解決する活動

③ 社会科における創造的活動

社会科は、社会の課題を含む社会的事象を取扱い、公民としての資質・能力の基礎の育成を目指す教科である。この社会科における「創造的活動」は、①生徒一人一人が社会的事象や社会的課題を自分事としてとらえ、生徒同士の協働の中で課題のより良い解決方法や今ある仕組みのより良い在り方を考察・構想していく活動、②学習を通して社会の将来像を予測し、それをよりよい姿に近づけるための手段や方法を考察・構想する活動の2つに整理され、「問題解決」が中心であると捉えられていた。

※ 「社会科における創造的活動」の共通要素

- ・生徒自身がもつ社会経験や社会に対する思いなどのこだわりを生かす課題設定であること
- ・個人やグループでの試行錯誤を通して課題解決に迫っていること
- ・対話を通して学習を深めたり、仲間の作品をとして自己の作品について見直したりするなど、新たな視点を獲得したりさせていること

(2) 視察校における授業の実際

第1学年 歴史分野 中世の日本

「武士の政権の成立～鎌倉幕府はなぜ将軍を殺したのか～」

頼朝時代の政治から北条氏による政治への変化について、比較し考察していくことで、武士にとっての理想の国の在り方について自分お考えをまとめていく。本研究授業での、研究テーマに沿った教科の見方・考え方は以下の通りである。

社会科研究授業での、創造的活動×創造的思考×教科の見方・考え方

①創造的活動

武士の理想の国づくりを構想し、仲間と協働しながらスライドにまとめる。

②創造的思考

・歴史的事実や資料を基に、創造的思考（解釈を創り出す力）を働かせ、自分なりの論を立てる。
・武士の理想の国を実現するための条件を、合議制メンバーの一員としての立場で構想する。そして、その条件を現代の視点に立って表現を工夫する。

③歴史的な見方・考え方

頼朝の死後の幕府の政治体制の変化・推移に着目し、分析する。

スライドのフォーマット

武士の理想の国を実現するために

目的：どのような国を目指すのか

<方法>

幕府の権力はどのようにあるべきか
例) 合議が集中か

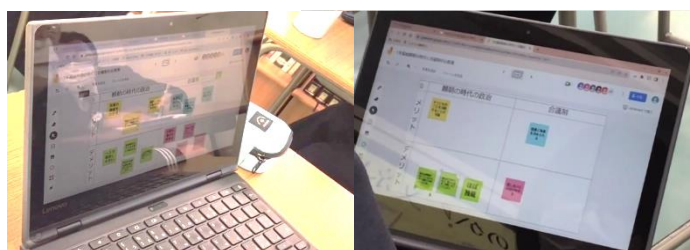
朝廷との関係はどのようにあるべきか
例) 距離を近づけるか離れるか

御家人との関係はどのようにあるべきか
例) 将軍と御家人の望ましい関係は

庶民との関係はどのようにあるべきか
例) 武士と庶民が良好な関係を築くには

前回までに学習した頼朝時代の政治と北条氏による執権政治を、ジャムボードを使って学習班ごとに表にまとめていく(写真1)。班ごとの話し合いでは、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の意見に対し批判的な意見を出しながら、班の中でより良い議論にしていく活発な意見交換の様子が見られた(写真2)。

「東国に武士たちの理想を作るとしたら」というテーマでの話し合いでは、教師が提示した考えるヒントを参考にしながら、人々にとって武士と庶民の望ましい関係とはどのようなものなのかを考察した。ヒントも何パターンか準備し、生徒が多面的・多角的に考察できるよう助言していた(写真3)。



〈写真1 生徒が取り組んだジャムボード〉



〈写真2 話し合いの様子〉



〈写真3 授業の様子〉

4 感想

社会的事象や今日的課題を自分事としてとらえ、思いを膨らませたり、常識にとらわれすぎずに新しいアイデアを広げたり、実行する力は、自立した人間として創造的に生きていくために身に付けたい力である。生徒と教師がともに学びをつくる主体であるという実践は、本校の授業実践でも参考にしていきたい。また、創造的思考を働かせて生み出した考えに対して、より良いものにするために批判的な意見が向けられてしまうこともあるが、そういった批判を恐れずに勇気をもって表現できる場や環境づくりや、その勇気に対する肯定的な個人内評価も、日頃の学級経営が安心できる雰囲気になっているからこそできることだと感じた。授業改善だけでなく、学級づくりを見直す研修の場となった。この素晴らしい実践を、今後の指導に生かしていきたい。